



郷土史

ていね

第43号

平成23年7月13日

手稲郷土史研究会会報

第62回（平成23年6月8日）定例会の講演

前田森林公園凸凹(でこぼこ)クラブの活動

～ 市民によるボランティア活動の一例から ～

前田森林公園凸凹クラブ代表 石田哲也氏

はじめに、現在急速に発展してきた近代的なボランティア活動の歴史は、まだ20年強と浅いが、地域に根ざし普及していくボランティア活動の一事例として前田森林公園凸凹クラブの活動が、これからも新しい歴史を刻んでいきたいと話があった。

前田森林凸凹クラブの活動について

平成14年5月に「前田森林公園サポーター講座」に参加したメンバーの有志により結成された。結成当初は19世帯36名（大人36名、子供10名）であった。以来10年にわたる活動を展開し、メンバーの増減（平成18年は54名）を経て、現在（平成23年）は24世帯39名（大人29名、子供10名）である。メンバーには中学生や主婦、70歳代の会員もいて男性・女性は半々である。

前田森林公園をフィールドとし、公園利用の活性化を目的として活動を開始した。行政主宰の取り組みをベースに自発的でユニークな市民活動（公園ボランティア）を創出した典型といえる。

平成15年4月に制定された同クラブ会則に基づき、次のとおりその活動内容は多種多彩であり、会員達が先ず楽しむことを通じて人を巻き込むのをモットーにしている。

1. 定例会は、奇数月の第1日曜日に原則開催している。
2. 自然観察会を、春・夏・秋・冬に各1回開催している。
3. トンカチ広場（自然木、木の実、建築端材を使つての自由木工広場）は、5月下旬から10月上旬まで計11回開催している。
4. 樹木名版の製作・設置・補修を公園オープン前の4月下旬に実施している。
5. 花壇の植栽は5月下旬からで、最近ではバードテーブルの撤去からひまわり畑やヒエ・アワ畑にとって変わってきた。
6. カナールの掃除支援は、春・秋にカナール（600m）から落ち葉などを除去。今年8月には一般市民から掃除ボランティアを募集予定である。
7. 藤まつりは昨年からの取り組み、今年は6月5日から開催した。展望ラウンジから見える藤の散開は見事で、多数の市民の参加がある。
8. 前田森林公園まつり・星まつりは、9月上旬に開催している。
9. パンフレットの製作は、2種類ある。内容は、公園の実のなる樹・針葉樹・珍木・バラ科樹木とカエデ類。英語版もある。
10. カエルプロジェクトを試行中である。
11. シンポジウム等の講演会を随時開催。
12. AEON幸せの黄色いレシート・キャンペーンにも参画している。
13. その他
 - ① 『野良がっこう』は、公園拡張区域の一角を利用したコミュニティーファーム活動の共催で、道工大碓山ゼミ・さくら館・ひまわり保育園・ダンボール堆肥のくるくるネットと共におくら、落花生、サツマイモ、ゴーヤなども収穫できた。
 - ② 「雪っていいね in 手稲2010」に共催参加し、アイスクリーム作り、ラフティング・ボート、宝探しなどを楽しんだ。
 - ③ 子供向けに「白と杵の実演」もした。

公園ボランティアの将来について

市民ボランティアの設立は比較的容易だがその活動を継続していくには、ボランティア自身の心構え・熱意とともに行政・公園管理者の支援（環境整備）が不可欠である。

札幌市の「みどりの基本計画」をベースにした札幌市公園ボランティア登録制度や（財）札幌市公園緑化協会の公園ボランティア設置要綱（凸凹クラブが登録）の拡充が望まれる。【裏面へ】



送毛 尻苗（浜益村）よもやま話

新発表 中村恭治氏

厚田村に生を受け、浜益村、小樽市で育った中村氏の、研究成果として、石狩市浜益区の送毛と濃昼の間にあったという幻の村「尻苗」について熱く語っていただいた。

1. 最初にアイヌ語の勉強から、地域の当時の食物、歴史について学ぶ。

- ① シリナイ（尻苗）～「高い沢」という。又この地はどんな日でも海は凪ぎないところ。
- ② ウクリキ（送毛）～ 原名の「ウクリキ」は植物の名称であり「トキナ」ともい。和名は「サジオモダカ」という。
- ⑦ アイカッブ（愛冠）～ ユーカラにも出て来る。愛冠は突端で矢のとどかないところ。むかしアイヌはここで闘い、見方は崖上に立ち、寄手は崖下に来て双方しきりに矢を放ったが、たがいに当たらなかった。
- ⑩ ヘロクロカルシ（浜益）～ 「ヘロ」は罅、「カルシ」は罅獲りの多いところという。昭和初年北海道アイヌ文学の研究者金田一京助博士が浜益はアイヌの“抒情詩ユーカラの発祥”の地であると学会で紹介。
- ⑫ コキビル（濃昼）～ 「コキビル」は陰の多い所、また「ボキビル」ともいう。「ボキ」は滝壺、「ビル」は水の落ちて沸騰するをいう。
- ⑭ ルーラン～ 「山より神（熊）が下りし路」和名漢字が付いていないが小字名である。下母澤寛（作家）異父弟、三岸好太郎が自筆年譜に「1902年—1歳北海道厚田ルーラン十六番地に生れる」と書いた。
- ⑮ アツタ～ 「アイヌ語地名資料集成」には「アツタ」蝦夷アツタとはあつし皮を剥ぐと訳す。「アツ」とは夷人着用になすあつし皮の事。「ター」とは取る亦是作るとなるとの訓にて夷人共比山中に住きてあつし皮を剥ぐ故此名ありという。



2. 年表により当時を回想するも、義経伝説、奥州との関わりを感じるのとこと。

- ・ 1661年（寛文元年） 松前藩、海路蝦夷地図を作成。「新御国絵図」この地図にマシケ、コキビル（濃昼）の地名が記載されている。
- ・ 1688年（文禄元年） 徳川光圀「海風丸」にて6月21日石狩に到着。アイヌと公益。40日滞留。
- ・ 1785年（天明5年） 松前藩はマシケ場所を二分し、マシケ場所、ハママシケ場所と改正す。
- ・ 1807年（文化4年） 3月蝦夷地、幕府の直轄となる。11月松前藩は奥州染川に移封。
- ・ 1894年（明治27年） 尻苗小学校建設。
- ・ 1971年（昭和46年） 11月幻と言われた浜益～厚田間の国道開通。

3. 北海道の義経伝説に見る義経の浜益地域での足跡と残されている伝説との題名などを紹介。

手稲山の埋蔵金、ルーランと「義経の涙岩」、義経とコキビル、義経と浜益黄金山

追って、アイヌ語の地名と歴史によって、生まれ育った石狩湾を囲う地域を振り返りながら、ロマンをふくまらせて語られた氏の想いを新鮮な感覚で聞き入りました。「石狩湾の海景」をライフワークとされる氏のご健闘を祈念し、筆を置きます。（文責：佐々木久）



【前面より】

市では、新しい試みとして、市内の公園にキッズコーナーやプレーパークの取り組みを行い、手作り遊具などを通して子供と大人が交流できる冒険遊び場を設置している。

公園ボランティアは、来園者に快適な環境を提供する三種の神器（清掃・草刈・花壇）、各種イベント支援、環境教育・子育て支援と活動範囲が広い。

あの樹何の樹？ 不思議な樹？ 樹木一本一本が生きている自然・大宇宙であり、公園を大事に育てていくことは、子供たちの情操教育そのものである。

最後に、「こうした活動に参加することで、まちづくりが仲間づくりから生き甲斐づくりへ、更に自分づくりへと繋がり、より素晴らしい人生を楽しむ歴史を刻むことになる」と話を結ばれた。

（文責：大沼靖男）

次回の予定

次回（8月10日）は、石狩市郷土史研究会の山口福司氏の講演「シベリア抑留の意味とその実態」と、川崎吉充氏の会員発表「『東北藩兵の幕末北方警備』で学んだことなど」を学習する予定です。

会場は、視聴覚室です。